田代よいとこ－その17－　館山・屋形山・蛇形山

今回は、昭和40年代に行われた採石のため、いまは山容のなくなってしまった館山(やかたやま)に関するお話です。
館山は、「田代富士」とも呼ばれていました。遠く平塚あたりからも八菅山・鳶尾山と仏果山・華厳山の間に眺めることができたとか。今はその姿を写真で偲ぶばかりです。〈写真1〉

1，館山にまつわる伝説

◆花上、荻田、成井姓の由来

治承4年(1180)源頼朝は石橋山の戦いに敗れ、間道伝いに館山まで逃れてきました。そして密かに兵を集め、再起をはかりました。このとき、村人が草花を集めてきて、仮館に敷き詰めました。頼朝は大いに喜び、花を献じたことから、これらの村人に「花上」の姓を与えました。また、この山の北口を警護した村人たちには、山が荻野と田代の中間であったことから「荻田」の姓を、山の東北側に木の柵を作って防備にあたった村人たちには、地元の言葉で柵を「なる」ということから「成井」の姓を与えました。

◆館山の名の由来

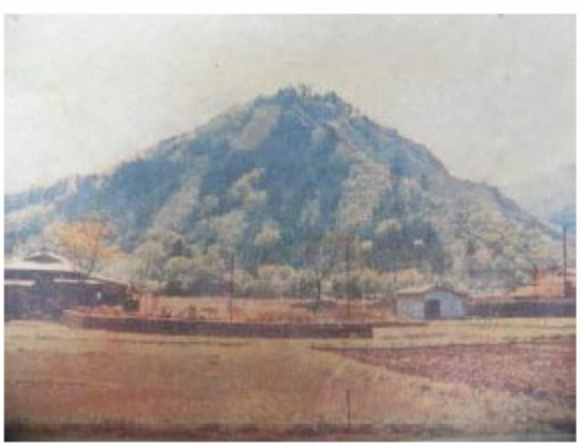
やがて頼朝はこの仮館を離れ、相模川を経て海路を安房(あわ)国(今の千葉県)へ向かいました。「館山」の名は、この仮館に由来します。また、山容が寄棟造（よせむねづくり）の屋根の形に似ていることから「屋形山」となったとも、とぐろを巻いている蛇の形に似ていることから「蛇形山」と呼ばれ、それが「ヤカタヤマ」となったとも言われています。

◆鎌倉幕府と九十九谷（やと）

頼朝が平家を滅ぼし、鎌倉に幕府を開いたことは皆さんご存知だと思いますが、じつは鎌倉に幕府を置く前に、もう一度頼朝は館山に足を運んでいます。幕府の適地を探すためでした。
敵から幕府を守るためには、天然の要害（谷＝やと）が多く必要です。館山の頂上に立った頼朝は、経ケ岳、仏果山、高取山、南山（関山ともいいます）、志田山に囲まれた田代、半原の谷の数を数えました。９９ありました。一方鎌倉の谷を数えると１００ありました。そこで頼朝は、鎌倉に幕府を開くことにしました。
以上は伝説なので、史実とは言いがたいものですが、なぜ頼朝と結びついて語り継がれてきたのか、興味が湧きますね。

2，狼煙場（のろしば）そして信仰の山

平成27年1月13日発行の学校だよりで、田代城の裏にそびえる冨士居山(ふじいやま)に敵の襲来を味方に知らせる狼煙場があったことを書きましたが、館山にも同じように狼煙場が置かれ、冨士居山と呼応して小田原北条氏の前線基地としてその使命を果たしたようです。
山頂は、八菅修験(はすげしゅげん)の回峯修行第3番目の行場であったとともに、海底地区の愛宕・飯綱（あたご・いずな）の合社がありました。また、勝楽寺八世の玄魟(げんいつ)和尚は、慶安4年(1651)5月10日、寺の欄干から館山に飛び去って帰らなかったといいます。信仰の山という性格も持っていたようです。



◆参考文献

『愛川町農協三十年史』(愛川町農業協同組合 昭和53年)
『愛川町郷土誌』(愛川町 昭和57年)
『新編相模国風土記稿』(江戸幕府編纂1841年)

〈写真１〉昭和42年当時の館山
愛川幼稚園方面より望む
(海底地区・成井啓七さん提供)

愛川町地域及びその周縁抜粋地図～「相模国地図」－宝暦２年(1752)森　幸安作図

①半原山

②田代山

③藤山
(富士居山？)

④屋形山
(館山)

約２６０年前の田代地区近辺の地図。今でも残っている地名を探してみましょう。

★宮ノ瀬とあるが,ここに宮ヶ瀬があるのは地理的におかしい。宮＝中津神社のある川辺を意味するのでしょうか。何か情報がありましたら教頭まで！